


- 人口464人、213世帯、
- 高齢化率25.6%（久慈市33.0%）
※令和2年8月末現在
- 長内川南岸、三陸鉄道～ユニバース
長内店手前
- 長内小学校通り両側
- ショッピングセンターや市中心部に
近く、新築住宅やアパートが増加し
ている住宅地



はじめに～ 東広美町の 概要

自主防災組織結成の動機

- 東日本大震災や平成28年台風10号など、近年の豪雨災害・台風被害の増加により災害に対する備えの必要性を認識し平成30年11月に結成した。
- 東広美町は、二級河川長内川の堤防沿いであり道路の冠水や住宅浸水、洪水などの実績がある。また、久慈市総合防災ハザードマップにおいても洪水浸水想定地域となっている。
- 町内会として「安全・安心なまちづくり」をめざしている。
- 久慈市として自主防災組織の結成を推進している。
- 結成することにより活動資金の補助が受けられる。

認定された自主防災組織には、防災活動や備蓄に関する経費を補助している。
(構成世帯数により、毎年度最大10万円の補助)



久慈市役所

久慈駅

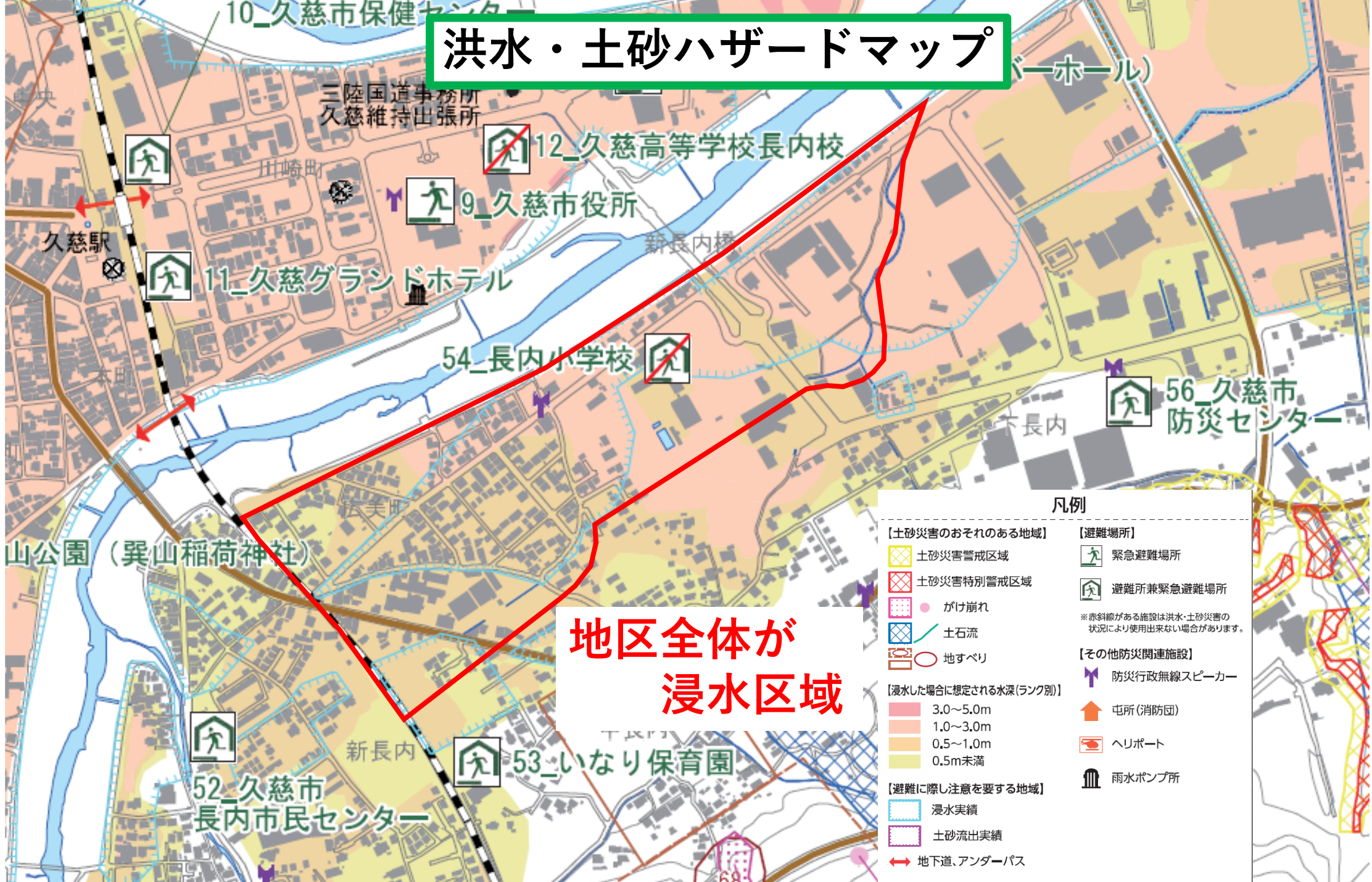
長内川

久慈市防災センター
(久慈消防署)

久慈市立
長内小学校

東広美町地区

洪水・土砂ハザードマップ



自主防災組織について

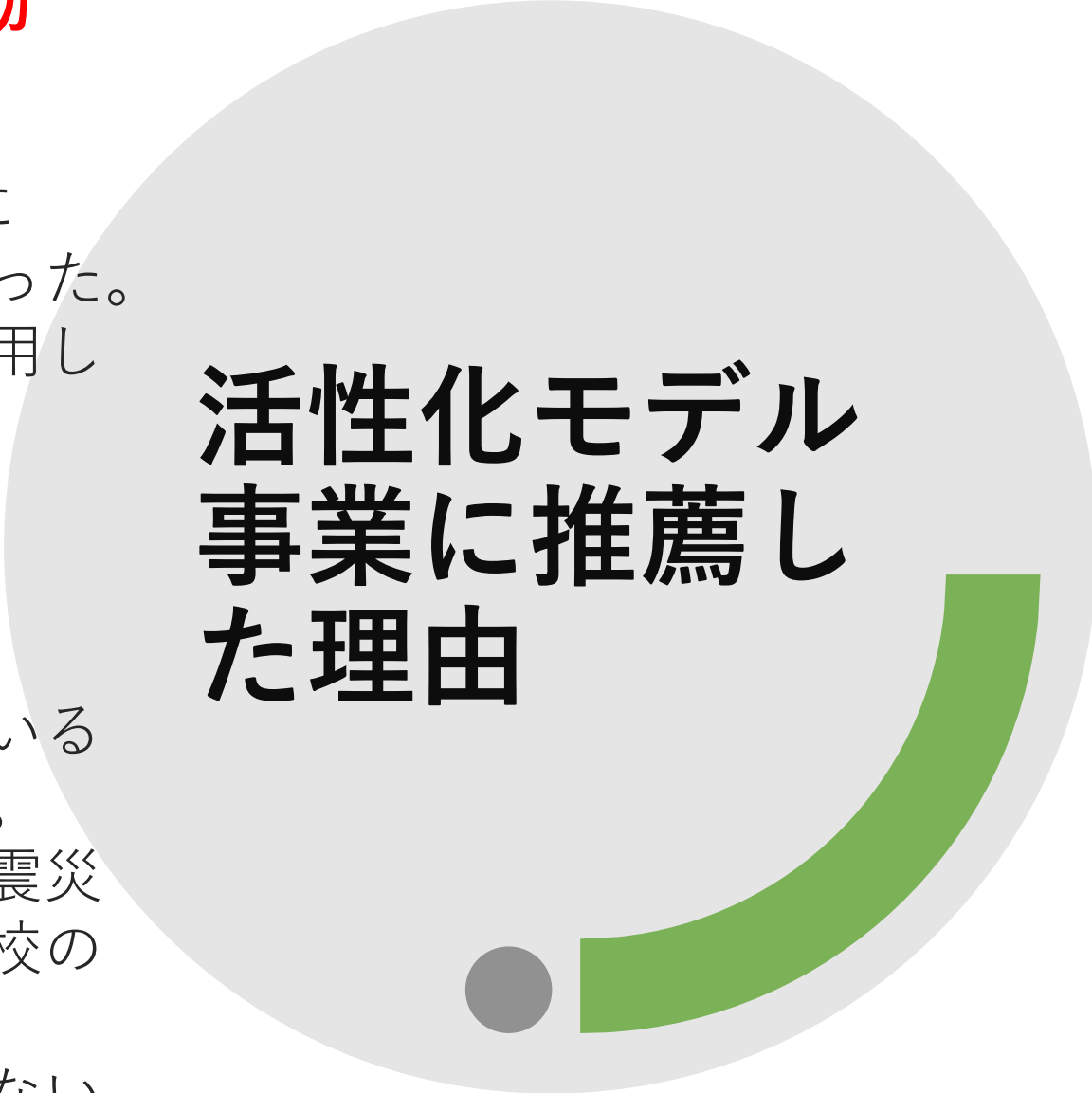
- 2017年7月 自主防災組織について検討開始（準備会3回）
- 2017年11月 災害時要援護者名簿の共有等に関する協定書締結
- 2018年11月 自主防災会結成、久慈市認定（同年11月22日）
結成総会兼第1回防災研修会開催（40人）
- 2019年6月 久慈市津波避難訓練に自主防として初参加（60人）
- 2019年度 岩手県自主防災組織活性化モデル事業に参加

1. 結成して間もないことから、活動実績や経験が少ない

- ・自主防災組織を結成して2年目、具体的に何をどうしたらいいのかという相談があった。活性化モデル事業を紹介したところ、活用したいとのことであった。

2. 災害リスクの高い地区であった

- ・当該地区は、二級河川長内川に隣接している地区で、台風時に浸水した家屋があった。
- ・久慈港まで比較的近い地区で、東日本大震災では、同地区に所在する、市立長内小学校の校庭が浸水した実績がある。
- ・地区内に高台や浸水区域外の公民館等がない



活性化モデル
事業に推薦し
た理由

第1回目 活動

久慈市防災センター
(令和元年. 9. 27)

事業の第1回目の活動として、自主防災組織を交えた活動に入る前に、事前打ち合わせを実施

・参加者

岩手県総務部総合防災室（三浦主査）

岩手大学地域防災研究センター

（福留教授、熊谷特任助教）

久慈市消防防災課員

主に、当該自主防災会の組織概要や、地域の地理的特徴、事業を進めるうえでの基本的な考え方について整理を行った。

また、岩手大学より、当該地区の高齢化率や要配慮者数といった、事業実施に必要なデータ収集を行うよう、市に指示があった。

第2回目 活動



東広美町自主防災会 第1回防災活性化会議 東広美町公民館 (令和元年. 11. 1)

• 会議のテーマ

【東広美町における災害リスクについて考える】

まず、自主防災会役員が台風19号時の出来事や被災状況、避難行動などについて、当時の記憶を基に情報交換を行った。

その内容について、福留教授が状況の整理や問題点等を見出し検証を行った。

• 参加者

岩手県総務部総合防災室（三浦主査）

岩手大学地域防災研究センター（福留教授、熊谷特任助教）

久慈市消防防災課、長内市民センター員

自主防災会役員（10人）

第2回目 活動



東広美町自主防災会 第1回防災活性化会議 東広美町公民館 (令和元年. 11. 1)

○語られた当時の状況

- ・避難の声掛けを行ったが、避難してくれない人もいた。また、雨が強くなり避難しなかった人が気になったため、外にでたところ、道路は冠水状態で、消防に救助を求めたが「すぐには行けない」と言われた。消防団も手一杯だった。
- ・自分自身避難所には行かずに、自宅で垂直避難していた。
- ・今までの経験で大丈夫だと思っていた。（役員で避難した人はいなかった。）
- ・避難準備・高齢者等避難開始で、高齢者や要支援者を避難所へ誘導した（8人）
- ・高齢の母がいるため家に留まり、寝ずにテレビ等で情報収集を行っていた。川の水位が上昇してきたため避難しようと思ったが、自宅周辺はすでに川のようになっており、避難できなかった。
- ・長内市民センター（避難所）が最大70名が避難

第2回目 活動



東広美町自主防災会
第1回防災活性化会議
東広美町公民館
(令和元年. 11. 1)

○福留教授からの問題提起

- ・ 本人が避難しなくても良いと言っても、地区としては放っておけないだろう。
- ・ 平日の昼間であれば世帯主が家にいないことが考えられる。要配慮について、家族は連絡をとれるだろうか。
- ・ 浸水の恐れがあると分かっているのに、高齢者を2階に上げなかったり、ギリギリまで1階にいたのは何故か。
- ・ 一人では避難が困難な人を、どうやって2階に上げるか。
- ・ 避難所に行けない状況になったらどうするか。・・・etc

地区として取り組みたい問題は？



どうすれば早く避難させられるか

第2回目 活動



東広美町自主防災会
第1回防災活性化会議
東広美町公民館
(令和元年. 11. 1)

○自主防役員（気づき）

高齢者を避難させるのは簡単ではない。安否確認も地区全体をするというのは難しいかもしれないが、班単位での安否確認であればできそう。



高齢者や要配慮者が、どこにいるのか把握する必要がある。それによって、誰がどの人を担当するということもはっきりしてくるのではないかな。

まず、現状把握し、分担し声をかける体制を作っていく。

以上の懇談から、今後の活動が決まった。

○以下について把握し、地図にシールで見える化する！

- ①自身で避難できない人（単独では難しい人）
- ②高齢者や老齢世帯で動けない人
- ③平屋

第3回目 活動



東広美町自主防災会 第2回防災活性化会議 東広美町公民館 (令和元年. 11. 30)

《協議内容》

高齢世帯（赤色）身障者・要支援者世帯（緑色）を模造紙大の住宅地図に印（シール）をつけて、見える化を行う。

《作業の流れ》

1. 80歳以上の住民がいる世帯の確認
2. 80歳以上か否かにかかわらず、東広美町自主防災会として支援や介護が必要だと考える世帯の確認
3. 災害時要支援者台帳に登載されているか否かに関わらず、東広美町自主防災会として支援が必要と考える世帯の確認
4. 1～3の作業を経た地図を見て、各自の感想を発表

《参加者》

岩手県総務部総合防災室（三浦主査）

岩手大学地域防災研究センター（福留教授、熊谷特任助教）

久慈市消防防災課、長内市民センター員

自主防災会役員（7人）

第3回目 活動



**東広美町自主防災会
第2回防災活性化会議
東広美町公民館
(令和元年. 11. 30)**

《作業しての感想発表》

- ①思っていたより高齢者世帯（1人・2人）が多かった
- ②地域的に偏りがあった
（東地区：アパートが多い 西地区：以前からの住人が多い）
- ③アパート世帯が増えていて付き合いが薄くわからない
- ④役員1人あたり3～4世帯であれば避難の呼びかけができるが、役員のほとんどは西地区に住んでいる
- ⑤いざという時の声掛けがどれくらいできるか
- ⑥水害時と津波時の避難場所が異なっている。避難場所がどこか分からない人もいるようだ
- ⑦避難の声掛け訓練を行い、住民の安否確認に要する時間を調べてみてはどうか？（福留教授）



次回、声掛け訓練を実施することとした

第4回目 活動

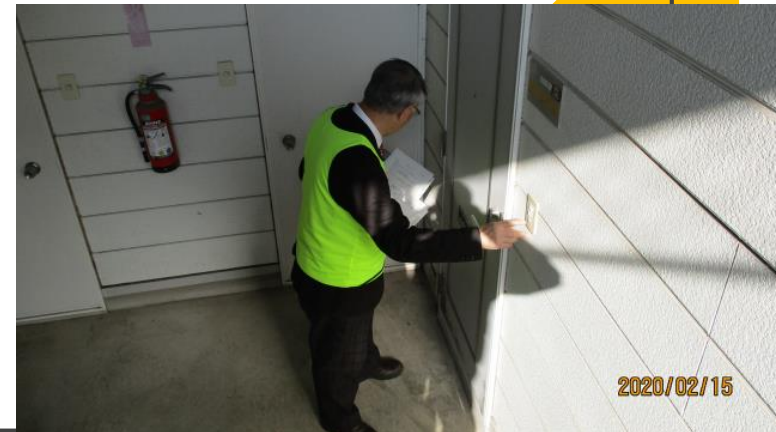


東広美町自主防災会 通報訓練

(令和2年. 2. 16)

《訓練概要》

- 日時：令和2年2月16日（日） 10：00～12：00
- 災害想定
豪雨により避難勧告（警戒レベル4）が発令
- 訓練内容
 - 東広美町地区の全世帯を対象に、班長や自主防災会役員が割当の地区ごとに各戸を訪問し声掛けを行う。
 - 自宅を訪問し、面会または反応を得られるまでの所要時間を記録し集計する。なお、訪問は最大3回までで打ち切る。
(最初は肉声で声掛け、インターホン2回まで)
 - 訓練後は全世帯を対象にアンケートを実施し、後日回収



第5回目 活動



《会議概要》

第1部を岩手大学地域防災研究センター 福留教授による防災講演会を実施。その後、第2部として、通報訓練の振り返りを行った。

第1部 防災講演会

『地域防災を考える』と題し、国内の災害時例の照会や、令和元年台風第19号における東広美町地区の避難状況などについて説明があった。



地区の事例を交えた講演で、真剣に聞く自主防災会員

東広美町自主防災会
第3回防災活性化会議
東広美町公民館
(令和2年. 2. 28)

第5回目 活動

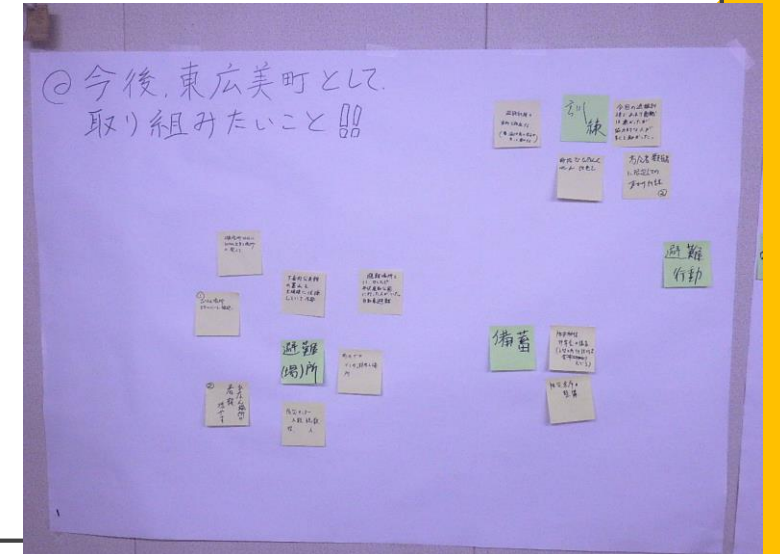


第2部 今後の取り組みについて

通報訓練の振り返りと、今後どのような活動を行っていくべきかについて話し合いが行われた。

各役員が付せん用紙に意見を書き込み、模造紙に貼り付けてまとめていくブレインストーミング方式により、今後の活動について意見の抽出を行った。

「高齢者の支援をどうするか」「避難場所までのルート確認が必要」など、高齢者や要配慮者の支援についての意見が多く出されていた。



東広美町自主防災会
第3回防災活性化会議
東広美町公民館
(令和2年. 2. 28)

今後の活動についてみんなの意見を出し合っている

第5回目 活動



**東広美町自主防災会
第3回防災活性化会議
東広美町公民館
(令和2年. 2. 28)**

《今後必要と考える取り組み》

- 避難場所、ルートの確認必要
- 町内や避難場所までのルートにある危険場所の点検等
- 要支援者、高齢者に限定した避難訓練必要
- 看板の設置（避難所・ルートの周知）

《通報訓練の成果と反省》

- 避難行動、声掛けの重要性を確認できた
- 実際に頻繁に起こる大雨災害で避難誘導を出来るか
- 長内地区の自主防組織（5組織）の連携の必要性

通報訓練アンケート結果（抜粋）

全世帯数：245世帯 訪問数：174世帯 アンケート回収数：76世帯

①声掛けにすぐ気が付いた（56%）

②声掛けは安心する（85%）

③声掛けされても避難は難しい（25%） *手助け必要など

④自宅以外の避難場所は？

長内市民センター、下長内公民館、防災センター、総合福祉センター、運動公園、
親戚、知人、子供の家など

⑤台風19号の避難行動は？ 家族全員又は一部避難（37%） *車中泊含む

⑥避難しなかった理由 「大丈夫だと思った」（48%）、 「面倒くさい」（15%）

⑦10/12に避難情報が発令されたことを知っていたか？ 「知っていた」（90%）

《参考》 町内の道路がほぼ冠水した。床上浸水ぎりぎりだった。

①, ②から声掛けは実施していく意味がある。③,⑥へのアプローチ方法を考える

モデル事業に取り組んで（東広美町の感想）

- 避難訓練、通報訓練を通して改めて避難の重要性について共有化できた。
- 日頃の声掛け、挨拶し合える関係を作ることが大事と気づいた。
- 班長は毎年変わるので訓練の継続性が大事（毎年開催）
- モデル事業に取り組んで早期避難行動が出来るかが重要であることを学んだ。
- 避難準備段階で役員・班長同士の連絡体制・体系の整備が喫緊の課題
（携帯電話での連絡体制）
- 連絡体制：会長⇄事務局長⇄各役員、班長
- 各役員の「向こう三軒両隣」への声掛け
- 日頃から訓練や会合を行うことで、防災意識を高く持っておかなければいけない。

最後に・・・

東広美町自主防災会は、活性化モデル事業に取り組み、避難時の難しさや問題点などに改めて気づくことができました。

昨年11月には、東広美町の周辺にある指定避難場所の確認を行うため、自主防災会と地区のこども会が合同で『防災さんぽ』という取り組みを企画しましたが、新型コロナの影響で自主防災会のみ行事となってしまいました。それでも、地域が全員で防災に取り組んでいくきっかけになっています。